5　本時の展開と各児童の目標（①指導･支援シート）　※ 段階的支援を設定した活動を中心に

学習の流れと本時の留意点（前回の反省から）	目　　標		
挨拶と授業の流れの確認 児童に向かって座り、始まりの挨拶をする。	・椅子に落ち着いて座って、話を聞く。 ・授業の流れを理解する。		
「みんなでたいそう」	・友達や先生と手を離さずに動く。 ・動く方向を意識して歩く。 ・周りの動きを意識して自分の動きをコントロールする。		
「はらぺこあおむし」　パネルシアター ・パネルシアターはテンポ良く進める。 ・絵をパネルに貼る時等、児童が笑顔を見せたら、視線を合わせて一緒に笑顔を見せる（情動の共有）。	・パネルシアターに興味を持って、楽しむ。 ・「あおむし」のぬいぐるみを使って食べ物を食べる様子を表現する。 ・「やりたい」という意思を、挙手や声で表現する。		
「蝶になって友達にとまろう」 児童が蝶の帽子を友達に渡した後、手をつないで蝶の位置へ連れて行く前にハイタッチをするようにし、相手を意識させる。 言葉かけを少なくして、児童が考えて動くことを促す。	①　自分から友達を選ぶ。 ②　役割交代をする。		②チェック
	f児	①　自分から友達を選び、タッチする。	○
		② 友達にタッチした後、自分でその友達に蝶の帽子をかぶせる。	○
	a児	①　自分からまだやっていない友達を選び、　タッチする。	○
		②　「○○ちゃんに帽子をかぶせるよ。」と声をかける。	○
	d児	①　言語のプロンプトにより、友達にタッチする。	△
		②　言語のプロンプトにより、友達に蝶の帽子をかぶせる	○
「あくしゅでこんにちは」 最初にｄ児を指名し、主に指導している教師と一緒に行う。 次にｂ児、ｅ児、ｆ児の順に、同じように行う。 最後に、ａ児とｃ児を指名し、児童同士で行う。	f児	教師の顔を見る。 教師の動きに合わせて振りを行う。	
	a児	相手（友達）の顔を見る。 相手の動きを意識し、動きを合わせる。	
授業の振り返りと　終わりの挨拶	椅子に座って話を聞く。 授業でやったことを振り返る。		

解　説

① 指導･支援シート

このシートはいわゆる指導案の展開部分ですが、段階的支援を設定した活動について、途中経過の様子をチェックし、記録していくシートとなっています。

② チェック欄

段階的支援によって設定した各児童の毎回の目標が達成できたかどうかをその都度チェックしていくための欄です。できたら○、前段階と同様の場合は×、何らかの事情でそれ以前の段階の支援が必要だった等の場合は△などと、記最初に録者がチェックしやすいように記号を決めておいてチェックしていきました。

	③目標を達成するための支援	④次回に向けて、及び特記事項
	授業の前に、児童が活動に集中しやすいように、カーテン等で窓、黒板、鏡を覆うなど、特に視覚的な刺激を遮断する。	
	児童の動きを見ながら、動くスピードをコントロールする。 手を離した児童がいたら、動きの変わり目のところで止めて、手をつながせる。	
	ただ見るだけの活動ではなく、途中、児童が食べ物の絵をパネルに貼る活動を入れ、興味を持たせる。 「あおむし」のぬいぐるみは全員が興味を持っているので、意欲的になりやすい。やりたいと意思表示をしたいが、声や挙手が出にくい児童には、その児童がやりたい食べ物が出てくる少し前から声をかけて気持ちを高める。	
	①　５秒ほど待っても自分から友達の所へ行かない場合は、子供たちの方を指さししながら、再度「誰の所へ　行こうかな？」と言葉かけをする。 ②　教師が帽子をとって、本人（ｆ）に手渡し、「〇〇ちゃんに　帽子をかぶせるよ。」と声をかける。	教師が蝶になって飛ぶ様子を目で追う(笑顔)。 言語と指差しで行う。
	①　「ちょうちょ」の歌の前に、「まだやっていない人の所へ行ってね。」と声をかけ、すでにやった友達のところへ行ったら、「〇〇ちゃんはもうやったよ。」と声をかける。 ②「〇〇ちゃんに帽子をかぶせるよ。」と声をかける。	まだやっていない友達がd児だけだったので、間違えないように教師が「〇〇と〇〇と、…はやったよ。」とヒントを出す。ヒントを出さずにまず自分で考えさせたい。
	①「〇〇ちゃんの所へ行くよ。」と声をかけ、そこへ行こうとしない場合は、指さしをしながらもう一度同じように声をかける。 ② 指さしをしながら、再度「〇〇ちゃんに帽子をかぶせるよ。」と声をかける。それでもやろうとしない場合は、モデリングをしてみせる。	蝶になって教室内を大回りするが、教師が手をとって元の位置に連れて行く途中で、自分でC児にタッチする。
	歌や振りの楽しさを生かしながら、教師が積極的に児童に働きかける（児童に視線を合わせる、歌のテンポを児童の動きに合わせる、児童の視界の中で大きく動く、等）ことで、できるだけ自然に児童の動きや表情などを引き出していくことが支援となる。	C児が写真カードからf児以外を選んだにもかかわらず、f児にこだわった場合、無理にやらなくてもよいことにする。

③ 目標を達成するための支援

基本的には、段階的支援に基づいて支援を行いますが、児童によって配慮する内容が違うので、個々に合わせて具体的な支援内容を記述しておくと、実際の指導場面で意図的な支援ができます。

④ 次回に向けて、及び特記事項

次回の授業に向けて、段階的支援の他に配慮すべきことや参考になる事柄をその都度記録しておくようにしました。そのことで、より具体的な各児童への支援の内容や配慮すべき点、改善点などが明らかになりました。